国際会議参加報告 (The 6th International Symposium on In-situ Rock Stress)[†]

中 尾 堯 雅*

Report on The 6th International Symposium on In-situ Rock Stress

by

Akimasa NAKAO*

2013年8月20日(火)～22日(木)において、岩盤の原位置における応力の評価・測定・応用に関する国際会議、The 6th International Symposium on In-situ Rock Stress (RS2013)が開催されました。この度、本会議に参加いたしましたので、その内容について感想を交えて報告をさせていただきます。

今回で第6回目の開催となるRS2013は、仙台市内の仙台国際センターで開催されました。本国際会議は、1986年にProf. Ove Stephanssonのもとスウェーデンのストックホルムで第1回会議が開かれて以来、不定期ながら開催が続けられており、これまでは、1997年と2003年に熊本で、2006年にノルウェーのトロンハイム、2010年に北京で開催されてきました。

本会議では138件の発表が行われ、5つの基調講演と9つのセッションにわたる口頭発表、そしてポスター発表が企画され、地元東北大学からの多数の参加者を始め21ヵ国から参加者が集まりました。多数の発表・議論が行われた本会議における主な論点は、地盤力学、原位置における岩盤応力計測、深部岩盤採掘、岩盤斜面の安定性、広域応力場、土木工学、CCS、放射性廃棄物の地層処分など幅広いものでしたが、特に今回の開催地が東北地方の仙台であったことも関係し、地震関連の発表が数多く見られたことが印象的でした。

私が参加したポスターセッションは、センター内の昼食会場と同じホール内行われ、ランチタイム前後には多数の参加者がセッション会場に集まり、非常に活気のあるディスカッションが行われました。また、ポスターセッションと同じ会場では、様々な企業や団体による展示ブースが設けられておりました。その他にも、ワークショップやフィールドトリップも用意されており、本会議全体を通して充実した内容であったと思われます。

今回は私にとって初めての国際会議参加の場となり、慣れないことも多くあり、積極的に議論に参加できる回数は少なかったですが、自分の発表の場においては、聴衆の方々から受けた質問に対する返答や意見の交換などをたくさん行うことができ、個人的にも非常に良い経験になったと思います。エントリーしていた学生発表賞を受賞することは叶いませんでしたが、本会議を通して得た経験を今後の研究や発表の場で活かしていきたいです。

図1 会場となった仙台国際センター

図2 オーラルセッションの様子

図3 ポスターセッションでのディスカッション。左から2人目が筆者

[†] 原稿受理 平成25年11月11日 Received Nov. 11, 2013 ©2014 The Society of Materials Science, Japan

* 正会員 京都大学大学院工学研究科 〒615-8540 京都市西京区京都大学桂 Kyoto Univ. Graduate School of Eng., Nishikyo-ku, Kyoto, 615-8540